



令和8年度 後期

伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

聴講無料・申込不要／定員 各回50名 *定員に達した場合は入場をお断りする場合があります

開催時間：各回とも14:45～16:15（開場 14:15）

*第6回のみ13:00～15:00（開場 12:30）

進行状況により延長する場合があります。

「日本伝統音楽に触れるのは初めて…」という方も、お気軽に受講いただけます。

日本伝統音楽研究センターの教員や研究員が、Sレコードなどに残された貴重な演奏音源を紹介し、解説します。

2026年

第1回 10月15日(木)

中世雅楽笛伝承の諸相

講師：根本 千聡 日本伝統音楽研究センター 特別研究員

第2回 11月5日(木)

Lレコードになった歌舞伎

講師：大西 秀紀 日本伝統音楽研究センター 客員研究員

第3回 11月19日(木)

四代目鶴屋南北『東海道四谷怪談』の幽霊演出の技巧を解く

—江戸時代の歌舞伎トリックへの一考察—

講師：鈴木 堅弘 日本伝統音楽研究センター 特別研究員

第4回 12月3日(木)

能楽の不即不離

—謡と鼓のミクロな実態をさぐる

講師：藤田 隆則 日本伝統音楽研究センター 所長

ゲスト：鎌田 紗弓 東京文化財研究所 主任研究員

第5回 12月17日(木)

女性作曲家の肖像

—外山道子を中心に—

講師：森下 周子 日本伝統音楽研究センター 特別研究員

2027年

第6回 1月17日(日)*

プロジェクト研究

「雅楽奏楽・謡曲・能楽子における在所伝承の諸相」

雅楽調査班中間報告Ⅱ

講師：田鍬智志 主宰
プロジェクト研究会メンバー

第7回 1月27日(水)

千本ゑんま堂大念仏狂言の“らしさ”はどのように継承されてきたか

講師：中野 ちひろ 大学院音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻2年

〈修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション〉

第8回 2月3日(水)

明清楽《茉莉花》の広がりの魅力

講師：呂 筱語 大学院音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻2年

〈修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション〉

各講座の内容詳細は裏面をご確認ください。

会場

京都市立芸術大学 伝音セミナールーム 京都市下京区下之町 57-1 (A棟1階)

- ・地下鉄烏丸線・JR各線・近鉄京都線「京都」駅下車徒歩6分
- ・京阪電車「七条」駅下車 徒歩10分
- ・市バス 4・7・16・81・205・南5号系統「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ

◆構内に駐車場はございません。
各種公共交通機関をご利用のうえ会場願います。

ご来場方法や座席等について特別な配慮を必要とされる方は、開催日の5日前までに共創テラス・連携推進課までご相談ください。
ご希望に沿うよう可能な限り対応いたします。



企画 | 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター Web <https://rijtm.kcua.ac.jp/>

主催 | 京都市立芸術大学

問合せ先 | 京都市立芸術大学事務局 TEL 075-585-2006 (平日 午前8時30分～午後5時15分)

共創テラス・連携推進課

E-mail public@kcua.ac.jp

Web <https://kcua.ac.jp/>



京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

第1回 中世雅楽笛伝承の諸相

10/15 木 講師：根本 千聡 日本伝統音楽研究センター特別研究員

古来、日本では笛がとても重要な楽器とみなされてきました。大陸から最新の音楽がもたらされてからもそこは変わらなかったようで、10世紀、日本で初めて作られた勅撰楽譜（天皇の命令によって作られた楽譜）も笛譜でした。そのため、笛を専門とする音楽家は大変に重宝されました。12～13世紀ごろになると、笛は天皇が修得すべき楽器“帝器”としての地位を確立してゆきます。それにしたがって、音楽家たちの動向にも変化があらわれました。今回は、こうした笛伝承の歴史を14世紀ごろまで概観しつつ、悲喜こもごものエピソードを紹介します。

第3回 四代目鶴屋南北『東海道四谷怪談』の幽霊演出の技巧を解く —江戸時代の歌舞伎トリックへの一考察—

11/19 木 講師：鈴木 堅弘 日本伝統音楽研究センター特別研究員

『東海道四谷怪談』（1825年初演）のクライマックスを彩る有名な幽霊演出（お岩の提灯抜け）は、本作品の作者である鶴屋南北（四代目）による発案ではない、とされています。では、その演出の起源はどこにあるのでしょうか？

そこで今回は、江戸時代の歌舞伎・人形浄瑠璃にて実演された妖怪・幽霊に関するトリック技巧を紹介し、『東海道四谷怪談』の怪談仕掛けの技巧について詳しく解説します。さらに、18世紀の「からくり芸能」や「見世物興行」の奇術と比較することで、これらの幽霊演出が『東海道四谷怪談』に取り込まれていく大衆芸能の歴史を明らかにします。

第5回 女性作曲家の肖像 — 外山道子を中心に —

12/17 木 講師：森下 周子 日本伝統音楽研究センター特別研究員

明治から昭和にかけて、多くの女性作曲家が活躍しました。なかでも大阪生まれの外山道子（1913–2006）は、1937年に国際現代音楽祭でアジア人初の大賞を受賞し、1950年代半ばにはコロンビア大学で電子音楽を制作するなど、輝かしい功績を残しました。本セミナーでは、外山を中心に女性作曲家の音楽を紹介し、なぜ彼女たちが今日まで十分に知られてこなかったのかを考えます。

第7回 千本ゑんま堂大念仏狂言の“らしさ”はどのように継承されてきたか

1/27 水 講師：中野 ちひろ 大学院音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻2年

京都三大念仏狂言の一つ、千本ゑんま堂大念仏狂言は引接寺（千本ゑんま堂）に伝わる民間芸能です。他の二つの大念仏狂言と大きく異なる点はセリフがあることです。ゑんま堂狂言独特のコミカルな演技や口調は観客の笑いを引き出します。こうした“ゑんま堂狂言らしさ”はどのような部分から成り立っているのか、また、どのように受け継がれていくのか、1年間伝承活動に参加した中で、見えてきたことをお話しします。

〈修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション〉

第2回 LPレコードになった歌舞伎

11/5 木 講師：大西 秀紀 日本伝統音楽研究センター特別研究員

歌舞伎は戦前のSPレコードの時代から数多くの録音が商品化されましたが、昭和26（1951）年に登場したLP（Long Play）レコードにも多くの名演が残されました。それらの中にはSP時代には実現できなかったライブ録音も含まれています。今回は「曾根崎心中（2鴈治郎、2扇雀）」「河庄（2鴈治郎、13仁左衛門）」「番町皿屋敷（孝夫・現仁左衛門、玉三郎）」からお聴きいただきます。

第4回 能楽の不即不離 — 謡と鼓のミクロな実態をさぐる

12/3 木 講師：藤田 隆則 日本伝統音楽研究センター所長
ゲスト：鎌田 紗弓 東京文化財研究所主任研究員

「不即不離（つかずはなれず）」という言葉がありますが、能楽をはじめとする日本の伝統音楽の世界では、この「不即不離」が大切にされています。ただし、その実態の研究は進んでいません。

そこで今回は、ゲストに鎌田紗弓氏を迎えて、謡と鼓がどのように合っているのか、能楽の音源を分析しながら「不即不離」のミクロな実態を明らかにしたいと思います。

第6回 プロジェクト研究 「雅楽奏楽・謡曲・能楽子における在所伝承の諸相」 雅楽調査班中間報告Ⅱ

* 1/17 日 講師：田畝智志主宰
プロジェクト研究会メンバー

ある土地に根付いた音楽が、その土地で長い歳月にわたり伝承されると、それぞれの土地固有の音楽的特徴があらわれてきます。あるいは、スタンダードな音楽伝承における洗練化・技巧化といった様式変化に呼応せず取り残されることもあります。令和3年度より、そのような雅楽系音楽の在所伝承の実態を調査してきました。前回報告会（令和6年度）に引き続き、これまでの調査のなかから、近江平野の在所雅楽伝承群、山形地方の倭楽伝承群、和歌山の練供養雅楽などの映像を交えて紹介します。

第8回 明清楽《茉莉花》の広がり的魅力

2/3 水 講師：呂 筱語 大学院音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻2年

中国の福建・江蘇などで愛唱される《茉莉花》は、日本の長崎・沖縄などにも伝えられ、非常に広い地域で親しまれてきました。その旋律や表現法などの分析によって地域ごとの共通点・相違点を明らかにし、《茉莉花》が各地域の文化・言語・音楽様式の影響をどのように受け、地域的特色を有する多様な伝承へと変容したのかを考察します。

〈修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション〉